

特別研究助成 成果報告

アフターコロナにおけるまちづくり事業の
方向性変化によるまちへの影響について

The Impact of the Change in Direction of Community
Development Projects Post-covid on the Town

三宅 正浩
MIYAKE Masahiro

アフターコロナにおけるまちづくり事業を通じた新たなコミュニケーション創生への提案について

Proposal for the Creation of New Communication through Community Development Projects Post-Covid on the Town

三宅 正浩
MIYAKE Masahiro

准教授（空間デザイン領域：建築意匠）

The changes of lifestyle triggered by the coronavirus pandemic have changed our values about where we live and work. Local community development projects being implemented throughout Japan under the slogan of “regional development” have also been greatly affected by the coronavirus pandemic, as the influx of people from other prefectures has been halted and tourism has been severely impacted. As we seek to change the direction of our town development projects in the age of living with Covid-19, we believe that it is difficult to create towns and regions that rely on tourism as in the past, and that we should shift to town development in which people living in the local area play a leading role. In preparation for this social experiment, we conducted surveys and research through a project in Miyoshi City, Tokushima Prefecture.

1. はじめに

新型コロナウイルスの影響により余儀なくされる生活様式の変容によって、住む場所や働く場所の価値観が変化している。地方創生を掲げて日本全国で実施されている地方のまちづくり事業においても、他都道府県からの流入がストップし観光業が大打撃をうけるなどその影響を大きく受けた。まちづくり事業の方向性の変更を模索しているなか、アフターコロナにおいては、これまでのような観光に頼ったまちづくりや地方創生は難しく、地方で暮らす人たちが主役となるまちづくりにシフトするべきだと考える。その社会実験の準備として、徳島県三好市のプロジェクトを通して調査、研究を行った。

私が徳島県三好市で設計監理したプロジェクト（地方への人材循環促進住宅等整備事業）において、新しい生活様式に対応する建築（ハード）と地方での暮らし方（ソフト）を提案し、ワークショップやSNSなどを通じて、その地域の内外へ発信した。令和3年度は、計画建物が竣工し、ワークショップを通じて、その建物と新生活様式に沿った豊かな暮らし方の提案と周知を行った。令和4年度は外構工事が竣工し、ワークショップで提案・制作したランドスケープファニチャーの7台をプレゼンテーションした上で、「地方への人材循環

促進住宅等」へ納品、設置した。令和5年度以降は、新しい生活が始まることで、まちづくりにどのような影響をもたらすかを検証していく計画である。

2. 「地方への人材循環促進住宅等」について

徳島県三好市箸蔵地区に「地方への人材循環促進住宅等」の設計監理を行なった。新型コロナウイルスの影響により余儀なくされる生活様式の変容によって、住む場所や働く場所の価値観が変化するなか、新型コロナウイルス感染症の蔓延をうけて、都市部企業向けのリモートワーク対応型住宅としてデザインしている。都市部企業の短期滞在施設と将来的な移住へつながる拠点施設を想定しており、都市部の人材の地方への分散やテレワークという新しい働き方への柔軟な対応だけでなく、この計画地内での企業間交流から、さらには地元市民との交流や地方貢献を希望する人材の確保、将来の移住に向けた活動を期待する。

外観は南北方向に屋根の軒ラインをそろえることで一体感を演出し、文字通り施設利用者が「大きなひとつ屋根の下」での共同意識が生まれやすい環境を生み出している。街から交流施設やコモンガーデン、コモンテラス（ウッドデッキテラス）から長屋、各住戸へとグラデーショナルにつながる生活環境を自然に作り出す。2つの住戸は長屋として建物を共有し、各棟はまたがるように拡張したコモンテラスを共有し、一列に並んだ複数の住棟は南北に長いコモンテラスを共有し、施設全体の利用者はコモンガーデンや交流施設を共有する。この共有の連鎖が自然なコミュニティ形成を促し、アフターコロナでの適度な距離感を意識したコミュニケーションが可能となる。各住戸はリビングやSOHOをテラスに開放することで、コモンテラスに生活や仕事の一部が拡張し、三好市の大自然と一体的な生活が可能となり、他の施設利用者とのコミュニケーションも活発化する。各戸のアプローチと玄関を敷地外側に設けて、居室とそれにつながるデッキテラスを敷地内側に配置し、リビングやSOHOを敷地中央へ向けてデッキでつなげることで、自然と交流が生まれやすいデザインとしている。



図1. 地方への人材循環促進住宅等 配置図兼平面図

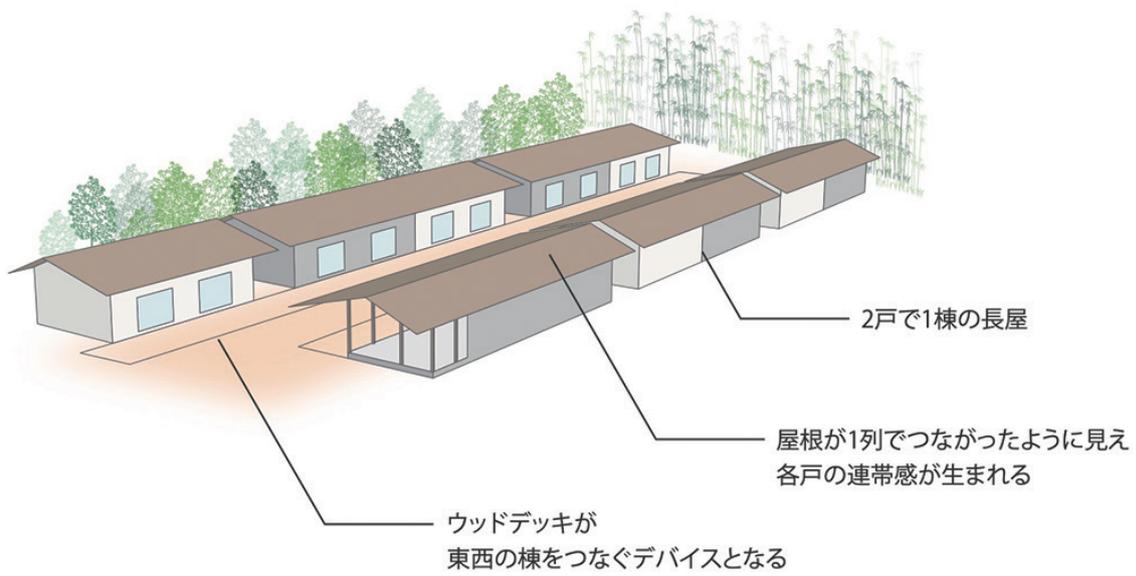


図2. 全体のデザインイメージ



図3. イメージパース



図4. コモンガーデンがコミュニケーションを生むイメージ

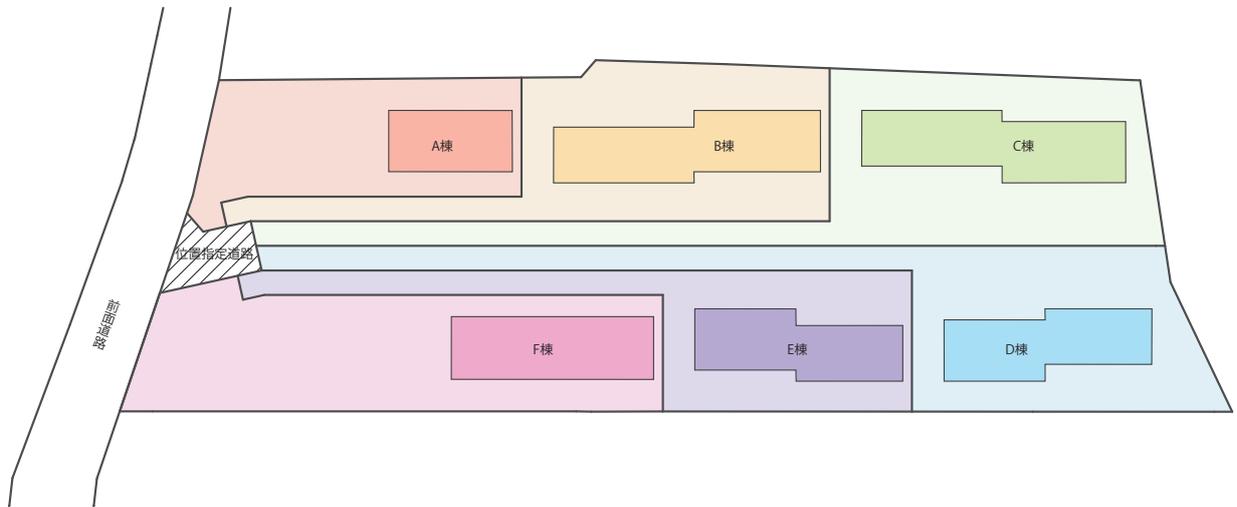


図5. 敷地は各住戸で分かれているが、共有のコモンガーデンを中央につくり出す



図6. 施設全景



図7. コモンガーデン



図8. 住人が自由に利用できる共有スペース

3. 第1回ワークショップ

—アフターコロナの中での新しい住環境を考える—

令和3年12月17～18日

参加学生 成安造形大学 空間デザイン領域 住環境デザインコース 7名

「地方への人材循環促進住宅等」でのアフターコロナを念頭とした新しい住環境のあり方を考えたうえで、コモンガーデンを快適に利用するためのランドスケープファニチャーのデザイン提案を行った。



図9. 「地方への人材循環促進住宅等」について説明を受ける



図10. 「地方への人材循環促進住宅等」の活用方法について各自が考える

2日間のワークショップで様々なランドスケープファニチャーのデザイン提案がされた。それはコモンガーデンで自然なコミュニケーションが生まれる提案となった。

TANOMIBA!!

楽しくなまろ!!
ふんふん遊ぼう!! 踊らろ!!

【目的】
この家具は、シェイプ友人に遊ぶ喜びとお客の力を借りて、世界のみんなとつながりあえることをこぼしたり、といったコミュニケーションを促すウッドパブリックの場になることを目指しています。

【使用法】
基本的に自分で組み立てやすいよう設計して自由に使用していただくことを想定しています。

- ①もたれかかるとできる高さ
- ②肘掛けや出っ張りのときにテーブルとして活用できる高さ
- ③腰かけられる高さ
- ④3つ並べるとお座敷、テーブルとして活用できる高さ
- ⑤椅子の高さ
- ⑥移動式のランタンかけ

チレグロ

テラスとテラスを洗濯物で繋ぐ。洗濯物のコエグロを吊橋とさせることからこのように名づけました。

【使用法】

- ① まずテラスや地面など好きな場所に設置します。
- ② 付属の洗濯ロープをフックで好きな長さに調節し、本体の頂部分に引っかけて固定します。
【この時に目一杯まで引っ張っておくと洗濯物をかけた時に引きずりにくくなります】
- ③ あとは洗濯物を干すだけです。
【洗濯物の他に乾かす洋服やラグマットなどイベントの飾りなどを干すこともできます】

※注意 方が一を避けるためお子様などが乗ったりぶら下がったりするのはご遠慮いただきますようお願いいたします。

Familiar

一羽の鳥が、
日常生活に馴染んでいくガーデンファニチャー

Familiarは、「ファンタジー」の「椅子」としてご利用いただけます。

6個あるユニットの組み合わせは自由。編成も可能です。ゆったりと座かけて談笑するといった体験を通してリラクゼーションをお楽しみください。

①「ファンタジー」→ 座席部分にファンタジーを設置することでおしゃれなファンタジーに仕上がります。

②「椅子」→ 向きを変えすることで、側面が座席になります。

③「椅子」としてご利用になる場合、突っ張り棒が固定されるようにして設置してください。

close の使い方

closeは屋外用の椅子です。

closeにもたれながら日向ぼっこをしてみたり、全身を預けて夜風を感じてみたり、寝そべりながら雲の動きを眺めてみたりして、その土地に近づくとわかる温度感を体験してください。

その土地に自然と近づき、発見する。体感する。三彩の温度。

IRODORI

コンセプト
〜ちょっとした日常生活に彩りを〜
共同で利用する屋外空間(テラス)の中でランドスケープファニチャーが存在することで、それぞれの景観に溶け込み彩り豊かなファニチャーを構築します。

利用写真

利用方法

注意事項

皆様がお心置きなくご利用いただけますように。

憩いの脚立 Stepladder for Rest

Concept

子供の頃遊んだジャングルジムや滑り台からの景色は、周囲をしっかりと見渡すことができ、楽しかったのを覚えています。

自分が普段位置しない視線の高さは、時には気づかないものに気づかせてくれます。「立つ・座る・寝る」という視線変化は日常的ですが「登る」という地面から足が離れる行為、視線変化はあまりないのではと思い、この作品を作りました。

また、自然豊かで空気の綺麗な三好市を満喫するには屋外、中庭で談笑したり作業ができるべきであると考えました。

どの段差にも座ることができ、最上段は机のような役割も果たします。

ツバイフォー材に無色の防霉剤を塗装しているだけですので、ぜひ使いやすいようにご自由にカスタマイズしてください。

危険ですので、上段の天板の上立つ行為はお控えください。

図 11. 提案作品

4. 第2回ワークショップ ーランドスケープファニチャーによる屋外への住環境 拡張の提案ー

令和4年4月9～10日

参加学生 成安造形大学 空間デザイン領域 住環境デザインコース 7名

前回のワークショップにより提案したランドスケープファニチャーを制作し、使い方などを三好市や事業者へプレゼンテーションした。



図 12. 制作の様子



図 13. 制作作品



Familiar



憩いの脚立



TANOMIBA!!



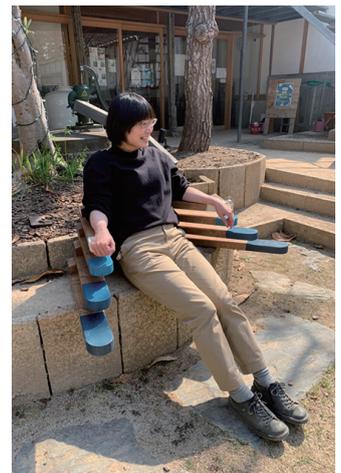
干しグロ



IRODORI



close



KAKOI

5. 作品の納品及び設置

令和4年8月10日

—各作品の概要—

・ Familiar

プランターボックスとスツールの2wayで、コモンガーデンで植物を育てながら自然と隣人とコミュニケーションが生まれる提案。

・ 干しグロ

隣家とのテラス同士を橋渡しする物干しロープで、洗濯物干しという日常的な家事の中でのコミュニケーションを狙っている。

・ close

徳島県の大自然をより身近に感じることができるように、大地のそばに寝そべり、空を見上げることができる寝椅子。

・ IRODORI

それだけでは自立しないカラフルな小さなスツールがコモンガーデンのあちこちで使われることで、コミュニティが生まれやすい。

・ 憩いの脚立

ウッドデッキから少しだけ視線のレベルを上げると、隣地の竹林が視界に入り、吉野川のせせらぎが聞こえてくるワークスペース。

・ KAKOI

ウッドデッキに置くだけでパーソナルスペースが生まれ、向かいの隣人とも会話が弾みやすい移動式の肘掛けと背もたれの提案。

・ TANOMIBA!!

ふとした時にタワー型のカウンターを中心に会話がスタートする宿木のような呑みニケーション空間。



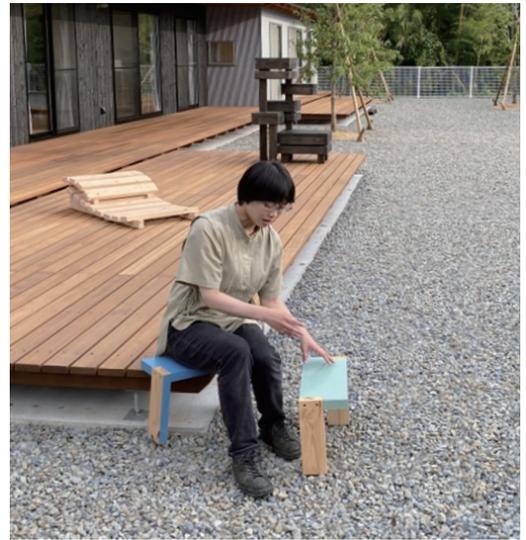
Familiar



干しグロ



close



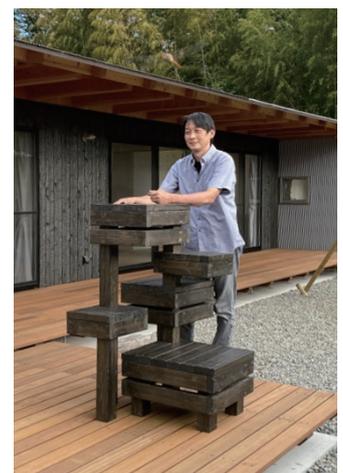
IRODORI



憩いの脚立



KAKOI



TANOMIBA!!

図 14. コモンガーデンへのランドスケープファニチャー設置状況

